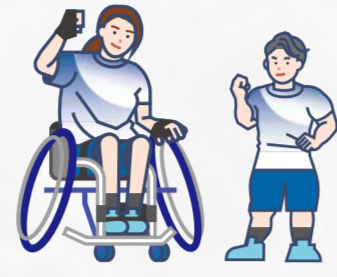


# パラリンピックに向けたクラス分けの道のり

～国際大会でのクラス分けの流れ～

国内競技団体の指導、助言の下、練習に取り組み、国内の競技会や記録会で成績を残すと国際大会への道が開けます。いよいよ国際大会に出場となると、その競技の国際競技団体を実施する国際クラス分けを受ける必要が出てきます。国際大会でのクラス分けでどんなことが行われるか、気を付けなければいけないポイントはどこか、見ていきましょう。



## 1 オンライン申請

クラス分けは多くの場合、競技会に合わせて競技会場で行われます。どの大会で、いつクラス分けを受けるかは国内競技団体と相談しましょう。

### 医学的診断情報 (MDF) の作成

国際クラス分けを受けるには、まずMDFの作成が必要です。

- ▶ 自分にはどんな障がいがあるか、どういう診断名が付くのかよく理解しましょう
- ▶ 国内競技団体と相談しながら、英語でMDFを作成できる医療機関を探しましょう

### クラス分けを行う「クラシファイア」とは?

国際競技団体による研修を受けて認定されます。

- ▶ 医師や理学療法士などの障がいの専門家
- ▶ 元コーチや研究者などの競技の専門家



## 2 クラス分けルーム

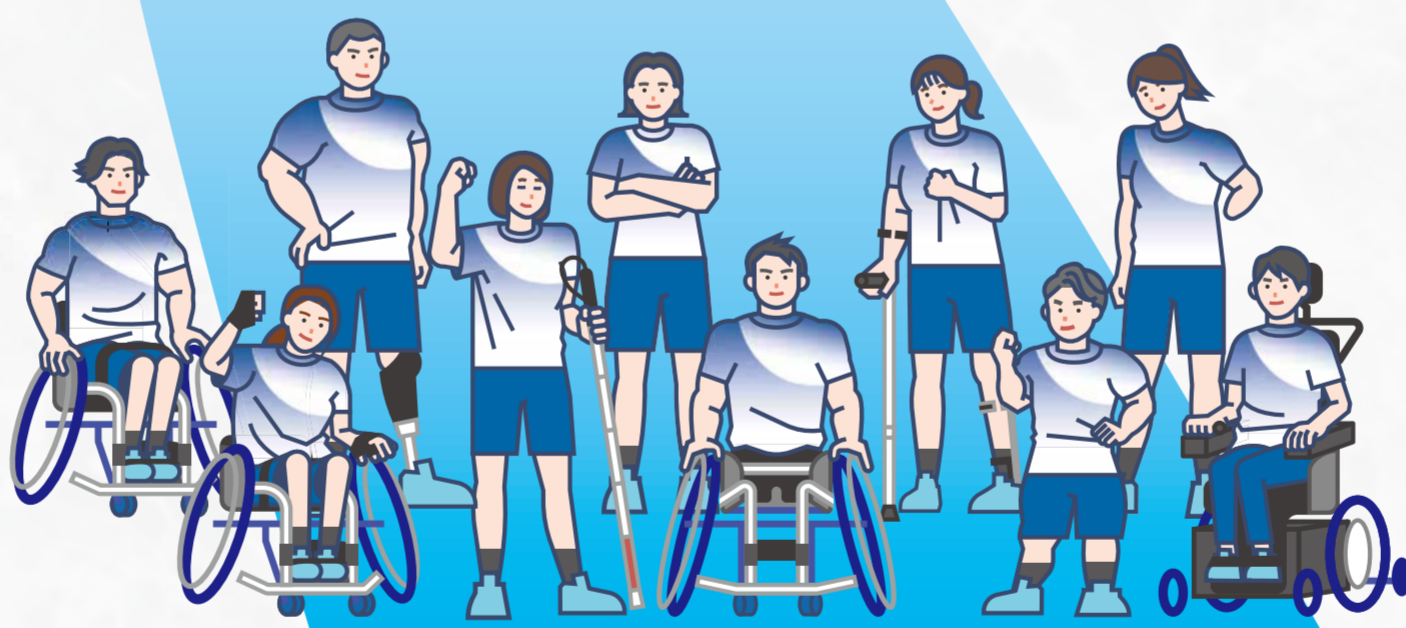
機能評価が終わったら、次は競技動作を評価します。

### ③ 技術評価

- ・ 走る
- ・ 泳ぐ
- ・ ボールを投げる
- ・ ラリーを行う



## 3 練習場、サブコート



## 4 競技会場

### 競技クラスの決定

### クラス分けルームでの評価セッション

クラス分けルームの中で、インタビューや機能評価などの評価セッションが行われます。

#### ① インタビュー

- ▶ 競技のこと (競技歴、練習頻度、使用する用具など)
- ▶ 障がいのこと (これまでの経緯、競技への影響など)



#### ② 機能評価

障がいの程度などを評価します。

例えば



関節可動域



体幹機能



視力

#### ④ 観察評価

競技によっては実際の試合中の様子を見る観察評価も行われます。



### クラス分けを脅かすIM (意図的不実表示)

意図的不実表示はクラス分けのドーピングとも呼ばれる極めて深刻な違反です。次のような行為や振る舞いなどのクラス分けを欺く行為が認められると、出場停止処分が科せられる可能性があります。



⚠️ 深刻な場合は生涯出場停止の処分の可能性 ⚠️



### メッセージ

日本パラリンピック委員会  
三阪洋行 委員長

パラリンピックを目指すうえで、クラス分けは競技生活の土台となる非常に大切な仕組みです。クラス分けは、障がいの種類や程度そのものを比べるのではなく、「競技にどのような影響があるか」を基準に、公平・公正に競い合うために行われます。つまり、勝敗が障がいの差だけで決まらないように、努力や技術、戦術、

日々の積み重ねによって力を発揮できる環境をつくるための制度です。

また、クラス分けを正しく理解することは、自分の身体機能や競技特性を理解することにもつながります。それによって、自分に合ったトレーニングや戦い方を見つけることができ、競技力向上にも大きく役立ちます。クラス分けは単なる手続きではなく、アスリートとして世界に挑戦するための重要な第一歩です。正しく向きあい、公平・公正な競争の中で、パラリンピックという世界最高の舞台に向けて、自分の可能性を最大限に発揮してほしいと思います。